

もっと知りたい『改訂版 高校生の音楽3』 こんなときはどの教材？

Q1 合唱曲を探している

器楽と併せて取り上げたいフランク「Panis angelicus」(p.51), 鑑賞と併せて取り上げたいモーツァルト「Lacrimosa」(p.54), 同じレクイエムでも時代の違いに着目し比較できる, 新収録のロイド・ウェッバー「Pie Jesu」(p.56) など, クラシック音楽の大本流を揃えています。これらラテン語の合唱曲に対しては「ラテン語で歌う」(p.57)にて歌い方や発音などをサポートしております。他にも, ミュージカルから「見果てぬ夢」(p.41) や, 「Celito Lindo」(p.45), 「トロイカ」(p.47) といった様々な国の民謡にも取り組みます。また, 震災から年月の経った今だからこそ「群青」(p.4)を取り上げる意味は大いにあるでしょう。



Pie Jesu・ラテン語で歌う (p.56・57)

Q2 少人数の授業で活動のメリハリがつかなくて…

3人以上なら何人でも対応できる「Doodle Piano」(p.70) はカノンを応用したアンサンブルで, 演奏順序を工夫すれば3部形式やロンド形式に発展し, 楽曲の形式も学べます。音楽Ⅲの履修者なので2人1組で「Somewhere」(p.42)の2重唱だってできることでしょ。う。「人と人が向

き合い触覚でコミュニケーションする音楽」として作曲された「Face to Face」(p.66)は少人数授業でこそ取り上げたい曲です。

Q3 音楽Ⅲならではの鑑賞活動をしたい

Q1でも挙げたモーツァルト「レクイエム 二短調」(p.89), 併せてワーグナー「タンホイザー」(p.90)では歌唱と併せて演奏の効果を高めることはもちろん, 歌詞や時代背景, 舞台設定など鑑賞を通して知ること, 表現力を高めることができるでしょう。ベートーヴェン「弦楽四重奏曲 第9番」(p.92)では同族楽器によるアンサンブルの音色や構造を鑑賞し, 同じく同族楽器の4重奏である「オープニング・テーマ」(p.73)や「戦争のパヴァーヌ」(p.76)といった器楽とも関連付けられます。ベートーヴェン「交響曲 第3番」(p.94)では, 大規模なソナタ形式である第1楽章を, 「音楽を読む」(p.78), 「自分の音楽をつくろう(ソナタをつくろう)」(p.84)といった創作の面から調べる, 体感することで作曲家の技術を確認することができるでしょう。

参考 音楽Ⅲの目標について

【現行学習指導要領 音楽Ⅲの目標より】

音楽の諸活動を通して, 生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに, 感性を磨き, 個性豊かな音楽の能力を高める。

【現行学習指導要領解説より】

「音楽Ⅲ」の目標では, 特に「個性豊かな音楽の能力を高める」ことを強調している。(中略)「個性豊かな音楽の能力を高める」ためには, これまでに生徒が身に付けた表現や鑑賞の能力を基盤として, それを更に高めながら, 音楽に対してより深くかかわっていきこうとする意欲をもって取り組み, それぞれの個性に応じた豊かな音楽観を形成できるようにすることが大切である。一人一人に応じた多様な活動を設定するなどして学習の深化を図っていく必要がある。